



島人ぬ宝から御万人ぬ宝へ

しまんちゅ

うまんちゅ

琉球諸島を世界自然遺産へ



島人ぬ宝から御万人ぬ宝へ
琉球諸島を世界自然遺産へ
沖縄県文化環境部自然保護課



目次

はじめに 1

I. 世界自然遺産とは 4

世界遺産は人類共通のたからもの 4
代表的な世界遺産 6
日本の世界遺産 ~自然遺産と文化遺産~ 8
日本の世界自然遺産 ~白神山地・屋久島そして知床~ 10

II. 「琉球諸島」を世界自然遺産へ 14

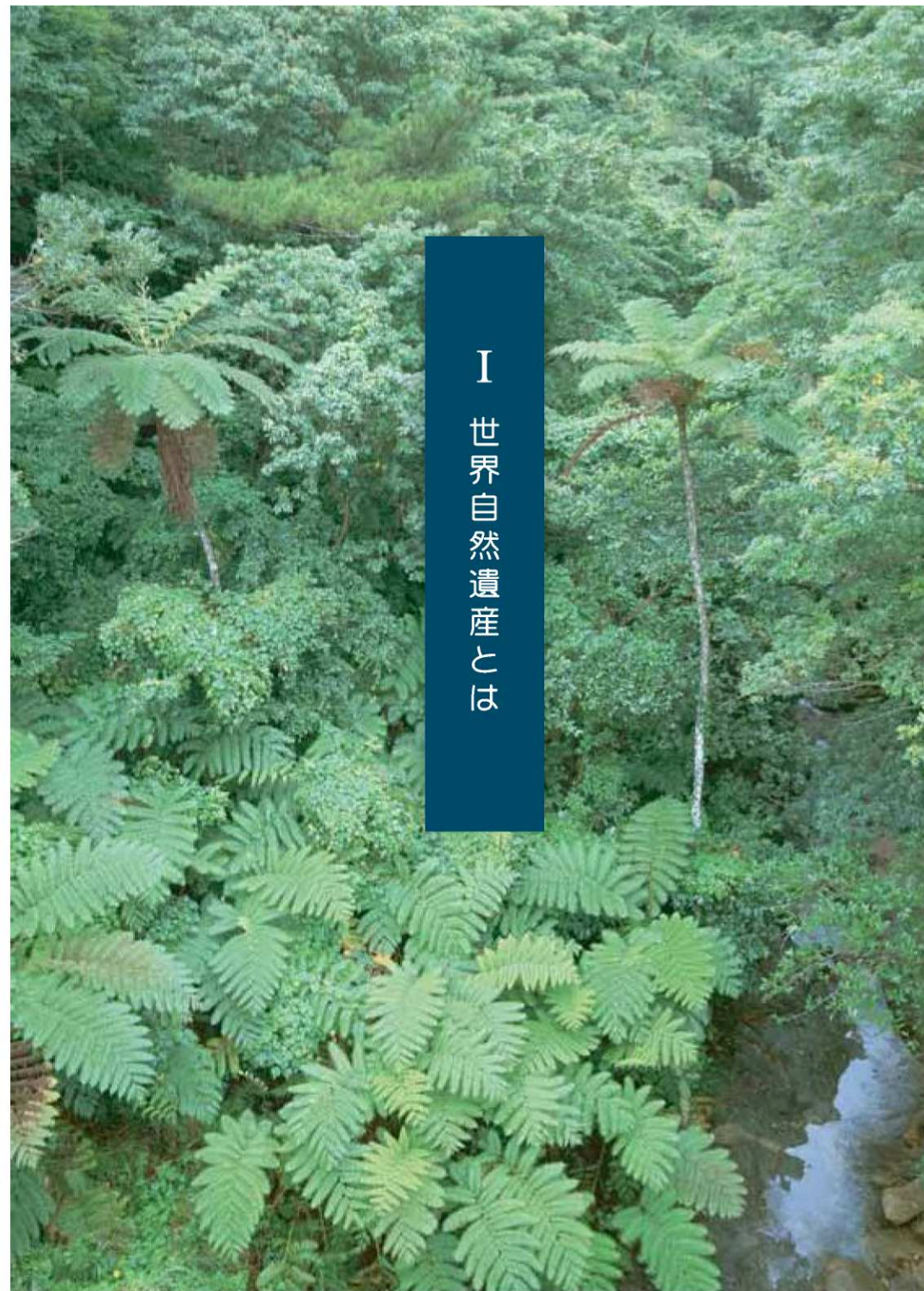
「琉球諸島」の自然 14
「琉球諸島」の位置 14
「琉球諸島」の自然特性 15
亜熱帯の植物四季おりおり 16
多様な動物たちと森の生態系 18
生きものいっぱい マングローブの森 20
サンゴの海 海が育む豊かな生態系 21
自然と人との共生を目指して 22
なぜ世界自然遺産? 24
世界自然遺産に登録されると地域がどのように変わる? 25
遺産を守っていくために 26
世界自然遺産の登録基準について 27
もっと知りたい!世界遺産 Q&A 28
世界遺産用語解説 29
付録・沖縄の貴重な生きものたち 30

しまんちゅ うまんちゅ

島人ぬ宝から御万人ぬ宝へ (本書のタイトル)

しまんちゅ うまんちゅ
島人：沖縄県民、御万人：世界のすべての人びとを意味しています。
「琉球諸島」の自然は私たち県民だけではなく、地球上のすべての人々にとっても大切な遺産であるといえます。

I 世界自然遺産とは



自然保護憲章

昭和49年6月5日
自然保護憲章制定国民会議

自然は、人間をはじめとして生きとして生けるものの母胎であり、厳粛で微妙な法則を有しつつ調和を保つものである。

人間は、日光、大気、水、大地、動植物などとともに自然を構成し、自然から恩恵とともに試練をも受け、それらを生かすことによって、文明を築きあげてきた。しかるに、われわれは、いつの日からか、文明の向上を迫るあまり、自然のとうとさを忘れ、自然のしくみの微妙さを軽んじ、自然は無尽蔵であるという錯覚から資源を浪費し、自然の調和を損なってきた。

この傾向は近年特に著しく、大気汚染、水の汚濁、みどりの消滅など、自然界における生物生存の諸条件は、いたるところで均衡が破られ、自然環境は急速に悪化するにいたった。

この状態がすみやかに改善されなければ、人間の精神は奥深いところまでむしばまれ、生命の存続さえ危ぶまれるにいたり、われわれの未来は重大な危機に直面するおそれがある。しかも、自然はひとたび破壊されると、復元には長い年月がかかり、あるいはまったく復元できない場合さえある。

今こそ、自然の厳粛さに目ざめ、自然を征服するとか、自然は人間に従属するなどという思いあがりをして、自然をとるとび、自然の調和を損なうことなく、節度ある利用に努め、自然環境の保全に国民の総力を結集すべきである。

よって、われわれは、ここに自然保護憲章を定める。

自然をとるとび、自然を愛し、自然に親しもう。

自然に学び、自然の調和をそこなわないようにしましょう。

美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。

- 1 自然を大切に、自然環境を保全することは、国、地方公共団体、法人、個人を問わず、最も重要なつとめである。
- 2 すぐれた自然景観や、学術的価値の高い自然は、全人類のため、適切な管理のもとに保護されるべきである。
- 3 開発は総合的な配慮のもとで慎重にすすめられなければならない。それはいかなる理由による場合でも、自然環境の保全に優先するものではない。
- 4 自然保護についての教育は、幼い頃から始め、家庭、学校、社会、それぞれにおいて、自然についての認識と愛情の育成に努め、自然保護の精神が身についた習性となるまで、徹底を図るべきである。
- 5 自然を損傷したり、破壊した場合は、全て速やかに復元に努めるべきである。
- 6 身近なところから、環境の浄化や、みどりの造成に努め、国土全域にわたって美しく明るい生活環境を創造すべきである。
- 7 各種の廃棄物の排出や薬物の使用などによって、自然を汚染し、破壊することは許されないことである。
- 8 野外にごみを捨てたり、自然物を傷つけたり、騒音を出したりすることは、厳に慎むべきである。
- 9 自然環境の保全にあたっては、地球的視野のもとに、積極的に国際協力を行うべきである。

はじめに

私たちが住む沖縄県は、国内随一の亜熱帯海洋性気候にあって、やんばるに広がるイタジイの森、西表島のマングローブ林、慶良間諸島や石西礁湖のサンゴ礁等に代表される優れた景観を有するとともに、ヤンバルクイナやイリオモテヤマネコなどの貴重な動植物が数多く生息・生育する多様な自然環境を有しています。

この本県の豊かな自然環境が評価され、平成15年5月、国（環境省・林野庁）が設置した「世界自然遺産候補地に関する検討会」において、鹿児島県のトカラ列島以南から本県全域を対象範囲とする「琉球諸島」が、世界自然遺産の登録基準を満たす可能性が高い地域として推薦候補地に選ばれました。これは、「琉球諸島」の自然環境が世界的にも特に優れた価値を有していることと同時に、私たち沖縄県民にはこの貴重な自然環境を未来の世代へと大切に守り引き継いでいく義務があるということを示しています。

「琉球諸島」が世界自然遺産へと登録されるためには、様々な基準を満たす必要があるとともに、登録地域の方々の理解と協力が必要となります。

沖縄県では、「琉球諸島」の自然環境を人類共通の宝物であると位置付け、世界自然遺産への登録を推進するため普及啓発等に取り組んでいます。

この「島人ぬ宝から御万人ぬ宝へ」の作成にあたっては、より多くの皆様の世界自然遺産について関心を持っていただけるよう、できるだけ分かりやすい内容とすることに努めました。この小冊子が、かけがえのない自然を守り伝えていくために何ができるのかを考えるきっかけとなればと願っています。

平成18年3月

沖縄県文化環境部

自然保護課長 我那覇 晃

I. 世界自然遺産とは

世界遺産は人類共通のたからもの

エジプトのピラミッドやアメリカのグランドキャニオンのように、世界中のあらゆる地域には、国や民族が誇りとしている文化財や自然があります。これらは、地球の成り立ちと人類が歩んできた歴史によって生み出され、過去から引き継がれてきた貴重な宝物です。世界遺産とは、世界遺産条約に基づいて世界遺産リストに登録された、世界中の人々が共有し、未来の世代に引き継いでいくべき宝物のことです。

世界遺産の種類

世界遺産には次の3つの種類があり、不動産が対象となっています。

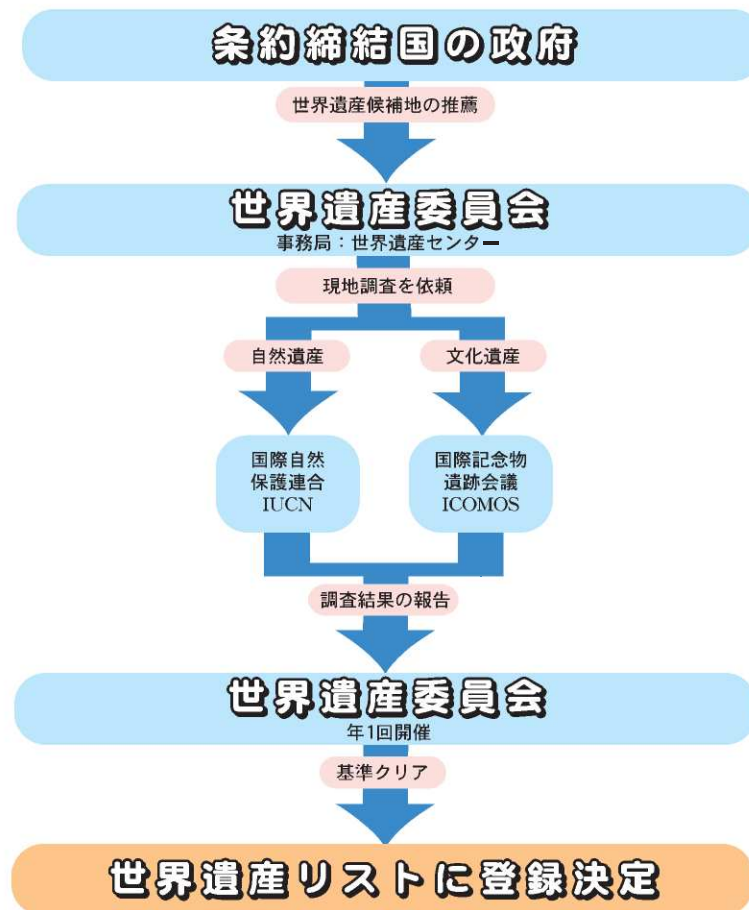


世界遺産条約とは

世界遺産条約とは、正式には「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」といい、1972年のユネスコ総会で採択されました。優れた価値を持つ自然遺産や文化遺産を損傷や破壊などから守り、国や民族を越えた人類共通の宝物として次世代に引き継いでいくことを目的とした国際条約です。

世界遺産に登録されるには

世界遺産に登録されるには、条約締結国が自国の自然や文化財の中から世界遺産としてふさわしい物件の暫定リストを作成し、世界遺産委員会に提出します。暫定リストに記載された物件の中から条件が整ったものを世界遺産委員会に推薦します。（1年につき1件）。推薦された物件に関して、世界遺産委員会から現地調査を依頼された専門機関によって、推薦物件の価値や保護・保全状態、今後の保護・保存管理計画などについての評価が行われます。世界遺産委員会において、専門機関からの評価報告書に基づく審議が行われ、世界遺産リスト登録への是非についての決定がなされます。



代表的な世界遺産

2005年8月現在、世界遺産リストに登録されているのは、137カ国、812件（文化遺産628、自然遺産160、複合遺産24）です。文化遺産では、フランスの「ヴェルサイユの宮殿と庭園」、カンボジアの「アンコール」、イタリアの「フィレンツェ歴史地区」などがあります。自然遺産では、カナダの「カナディアン・ロッキー山脈自然公園群」オーストラリアの「グレート・バリア・リーフ」などがあります。

複合遺産では、インカの都市遺跡と森林地帯でペルーの「マチュピチュ」、オーストラリアの「アボリジニの聖地ウルル（通称エアーズロック）」などがあります。

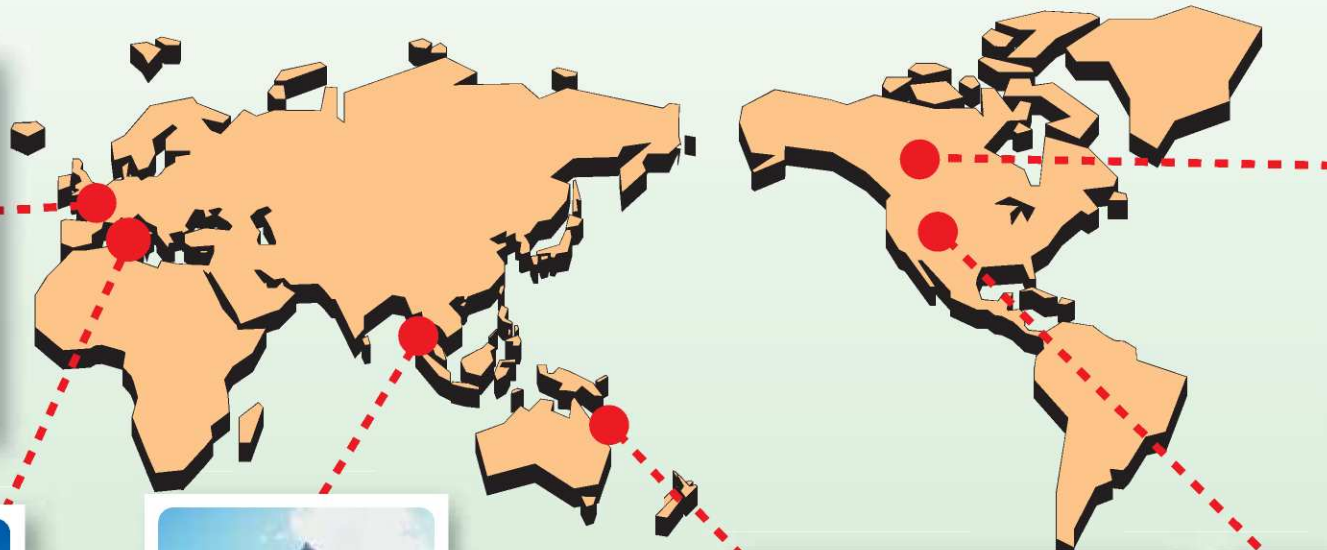
世界遺産地域別・種別の概要

| | アメリカ | アフリカ | オセアニア | アジア | ヨーロッパ | 合計 |
|------|------|------|-------|-----|-------|-----|
| 自然遺産 | 51 | 35 | 14 | 30 | 30 | 160 |
| 文化遺産 | 90 | 65 | 1 | 130 | 342 | 628 |
| 複合遺産 | 3 | 3 | 5 | 4 | 9 | 24 |
| 合計 | 144 | 103 | 20 | 164 | 381 | 812 |

2005年8月現在



【文化遺産】
ヴェルサイユの宮殿と庭園（フランス）
1976年登録



【自然遺産】
カナディアン・ロッキー
山脈自然公園群（カナダ）
1984年登録



【文化遺産】
フィレンツェ歴史地区（イタリア）
1982年登録



【文化遺産】
アンコール（カンボジア）
1992年登録



【自然遺産】
グレート・バリア・リーフ（オーストラリア）
1981年登録



【自然遺産】
グランド・キャニオン国立公園（アメリカ）
1979年登録

日本の世界遺産～自然遺産と文化遺産～

2005年8月現在、日本では13件が世界遺産リストに登録されています。自然遺産が3件、文化遺産が10件で、現在のところ複合遺産はありません。沖縄県では2000年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」が登録されています。

日本の世界遺産

| 種別 | No. | 名称 | 登録年 |
|------|-----|-----------------------|------|
| 自然遺産 | 1 | 屋久島 | 1993 |
| | 2 | 白神山地 | 1993 |
| | 3 | 知床 | 2005 |
| 文化遺産 | 1 | 法隆寺地域の仏教建造物 | 1993 |
| | 2 | 姫路城 | 1993 |
| | 3 | 古都京都の文化財（京都市、宇治市、大津市） | 1994 |
| | 4 | 白川郷・五箇山の合掌造り集落 | 1995 |
| | 5 | 広島平和記念碑（原爆ドーム） | 1996 |
| | 6 | 厳島神社 | 1996 |
| | 7 | 古都奈良の文化財 | 1998 |
| | 8 | 日光の社寺 | 1999 |
| | 9 | 琉球王国のグスク及び関連遺産群 | 2000 |
| | 10 | 紀伊山地の霊場と参詣道 | 2004 |

琉球王国のグスク及び関連遺産群

| 名称 | 所在地 |
|-----------|------------|
| ・今帰仁城跡 | 今帰仁村字今泊ハナ原 |
| ・座喜味城跡 | 読谷村字座喜味城原 |
| ・勝連城跡 | うるま市字南風原 |
| ・中城城跡 | 中城村字泊 |
| ・首里城跡 | 那覇市首里当蔵町 |
| ・園比屋武御嶽石門 | 那覇市首里当蔵町 |
| ・玉陵 | 那覇市首里金城町 |
| ・識名園 | 那覇市字真地 |
| ・斎場御嶽 | 南城市知念久手堅 |



▲首里城



【自然遺産】
白神山地（青森県・秋田県）

1993年登録



斜里町提供

【自然遺産】
知床（北海道）

2005年登録



【自然遺産】
屋久島（鹿児島県）

1993年登録



白神山地

1993年登録



自然の特性

白神山地とは、青森県南西部と秋田県北西部の県境にまたがる標高100m～1200m余におよぶ山岳地帯の総称であり、北半球の冷温帯を代表する林であるブナ林が世界最大級の規模で残されています。

白神山地の核心部に位置する遺産地域には、ほとんど人手が入っていない原生的なブナ林が純度の高い状態で残されており、ツキノワグマやクマゲラなどの多種多様な動植物が共存する世界的に特異な森林となっています。



▲ブナ林の遊歩道で散歩を楽しむ人たち



紅葉の断崖から流れ落ちる滝▶



屋久島

1993年登録



自然の特性

屋久島は、鹿児島市の南方約130kmに位置し、九州最高峰の宮之浦岳（1936m）をはじめとする高山が連なり、亜熱帯から山岳地帯特有の気候特性を有する山岳島です。屋久島は、世界的に特異な樹齢数千年のヤクスギをはじめ、多くの固有種や絶滅のおそれのある動植物などを含む生物相を有しています。また、海岸部から亜高山帯に及ぶ植生の典型的な垂直分布がみられるなど、特異な生態系と優れた自然景観を有しています。



▲何千年もの間、屋久島の自然を見続けてきた縄文杉。樹幹には気の遠くなるような時間の流れが刻まれています。



貴重な自然に触れるために世界中から多くの人が訪れます。この地域の自然を現在～将来にわたって守り、次の世代に引き継ぐことが大切です。



知床

2005年登録

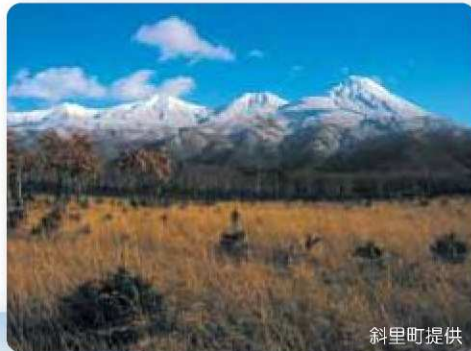


自然の特性

知床は、北海道東北部に位置するオホーツク海と根室海峡に囲まれた半島です。北半球では最も低緯度で流氷の影響を広く受ける地域であり、流氷が育む海洋生態系と原始性の高い陸上生態系の相互作用とともに、豊かな生態系の生産性を特徴的に示しています。

知床にはシレットコスミレなどの希少種が生育しており、また、シマフクロウやオオワシなどの国際的希少種の重要な繁殖地や越冬地となっています。

さらに、ヒグマやエゾシカなどの大型の哺乳類が高密度で棲息する豊かな自然を有しています。



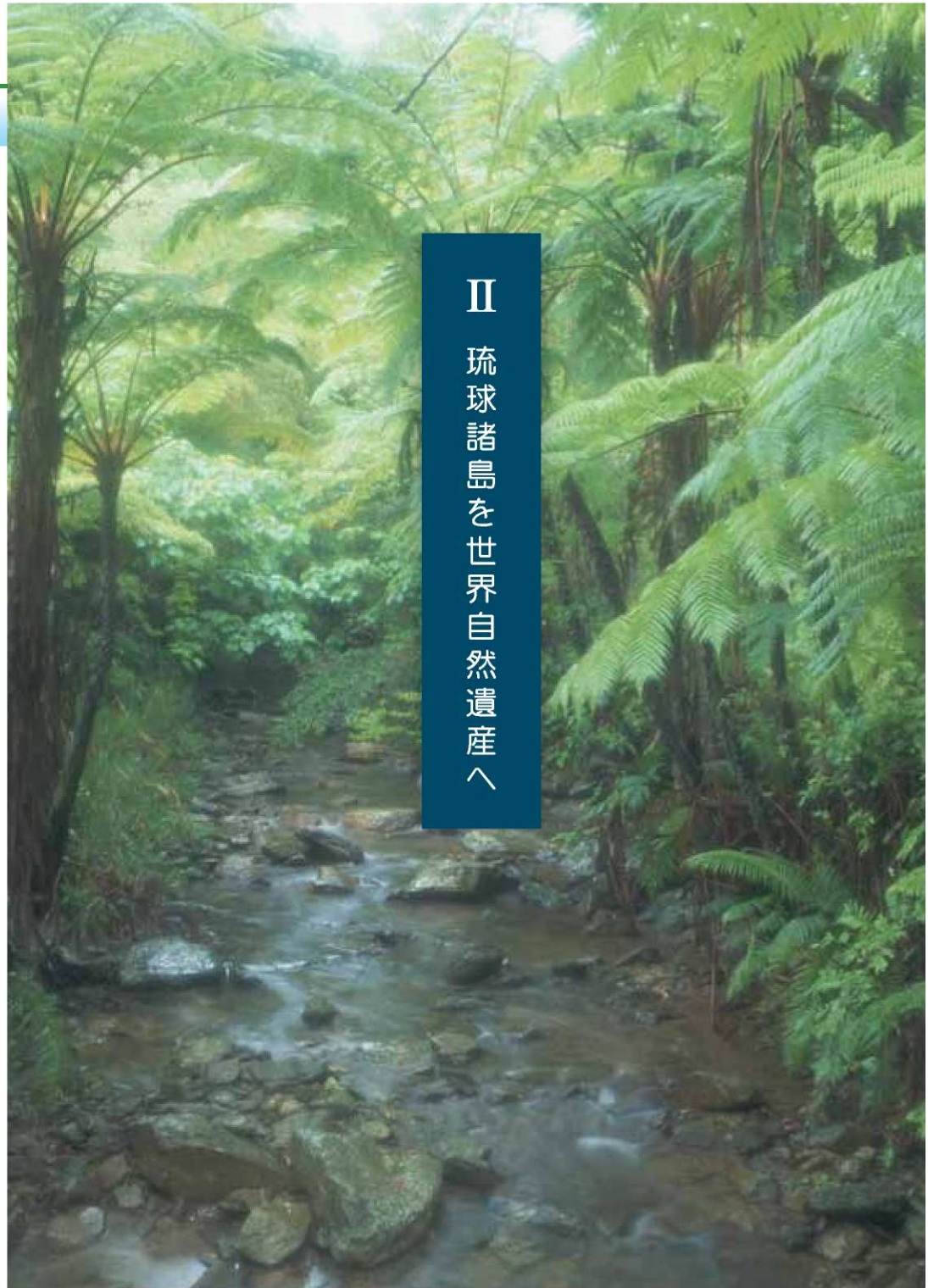
斜里町提供

▲羅臼岳から連なる知床連山



斜里町提供

◀空から見る知床半島

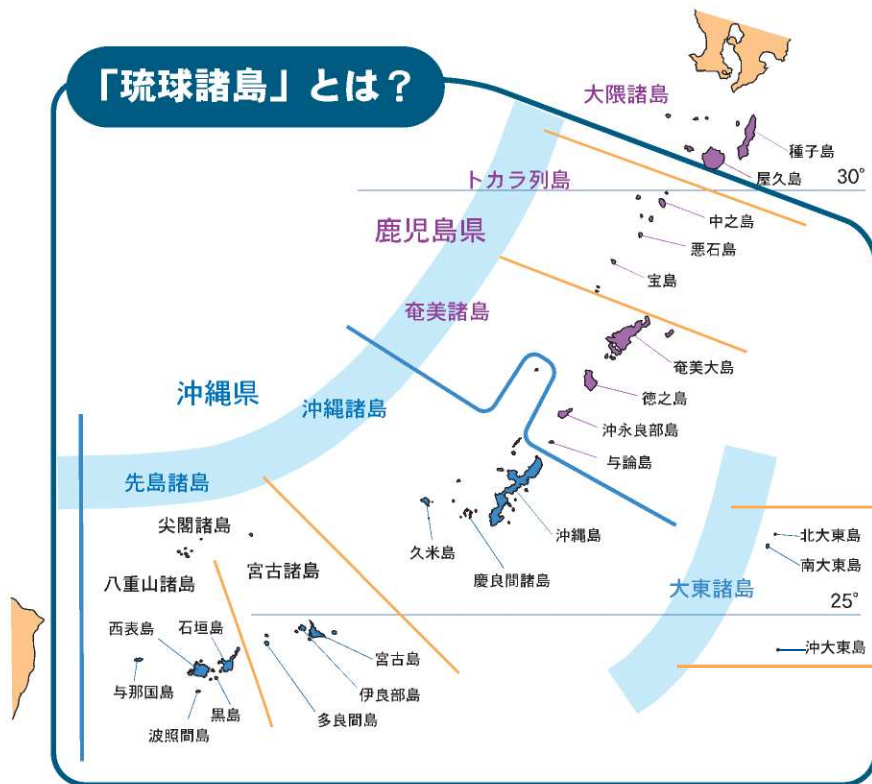


Ⅱ 琉球諸島を世界自然遺産へ

II. 「琉球諸島」を世界自然遺産へ

「琉球諸島」の位置

ここでいう「琉球諸島」とは、鹿児島県のトカラ列島、奄美諸島、沖縄県の沖縄諸島、先島諸島、大東諸島をさしています。距離にすると九州の南から与那国島までおよそ1200kmに及びます。世界自然遺産の候補地として、これらの範囲が対象となっています。



「琉球諸島」の自然特性

「琉球諸島」は、ユーラシア大陸の東側に張り出した弧状の列島です。その成立はプレート運動とサンゴ礁の働きによるところが大きく、大昔から中国大陆や日本列島と陸続きになったり、離れたりを繰り返して、多くの島々が散らばる現在の姿ができました。

「琉球諸島」は世界の他の亜熱帯地域に比べると例外的に雨が多いため、豊かな森林が分布しています。温帯の特徴を残す山地林、海岸のマングローブ林、浅海のサンゴ礁と特徴的な生態系が連続して見られます。そのため、太古の昔、大陸から渡ってきた生物が独自の進化を遂げたことと相まって、遺存種や固有種が多い独特の生物相を形成しています。

「固有種の宝庫」ともいわれる琉球諸島の自然は、かけがえのない大切なものですが、壊れやすいものでもあります。私たちは、この豊かな自然を守り、大事に残していかなければなりません。

